

# ベトナム人日本語学習者にみられる 図形の一筆描き動作の特徴

ドイツ人日本語学習者および日本人学生との比較による予備的検討

田 口 雅 徳

## Abstract

The present study aimed to examine the characteristics of figure-drawing on Vietnamese Japanese-language learners, compared with German Japanese-language learners and Japanese students. The participants in this study were 5 Vietnamese, 6 German and 5 Japanese students and were asked to draw a circle, triangle, rhombus and pentagon by one stroke. The results showed that Vietnamese students drew a circle counter-clockwise from the top-left of a circle in the same way as German students drew it. The results also indicated that Vietnamese students drew a triangle, rhombus and pentagon counter-clockwise from the vertex of these figures in the same way as Japanese students drew them. These characteristics of figure-drawings in Vietnamese students were discussed about in terms of the acquisition of writing behavior in Japanese characters.

## 1. 問題と目的

### 1.1 はじめに

日本語の表記には、ひらがな、カタカナ、漢字が用いられる。このように多様な文字が存在するため、日本語学習者にとって日本語の文字習得には多大な労力が必要になるという。とくに、非漢字圏の日本語学習者にとって漢字学習は大きな負担になっていると指摘されている（たとえば、桑原, 2000; 谷口, 2017）。こうした状況から、とくに非漢字圏日本語学習者を対象とした漢字の習得指導に関する研究が多数おこなわれている（たとえば、石田, 2017; 中村, 2019）。

非漢字圏のなかでも、ベトナム人日本語学習者を対象とした研究は比較的多いようにおもわれる。その理由の1つとしては、日本におけるベトナム人留学生の増加があげられるだろうが（佐藤・堀江, 2015）、他の理由として、日本語とベトナム語との類似性に関する問題があげられるであろう。

ベトナムでは、19世紀末のフランスによる植民地化に伴って、ローマ字が使用されるようになった。しかし、もともとベトナムは中華文明の影響を強く受けており、19世紀頃までは書きことばとして漢文および漢字由来のチュノム文字が使用されていたという（岩月, 2005）。また、

「ベトナム語辞書に登録されている語彙の約7割は漢語起源（岩月，2005）」であり、そうした“漢越語”のなかには、日本語の“漢字”と音韻が類似している語も多く、意味や用法にも類縁性がみられると指摘されている（海保・Haththotuwa-Gamage, 2001）。そのため、漢越語の知識が日本語の漢字語彙の学習に有利に働くことが先行研究の結果から示唆されている（たとえば、松田・タンティ・ゴ・金村・中平・三上, 2008; 長野, 2017; 中川・小林, 2008）。また、こうした漢越語の特徴に関連づけて、ベトナム人日本語学習者の漢字の学習方法や学習意識を検討した研究、さらにベトナム人学習者への漢字の教授法の開発を目的とした研究も報告されている（たとえば、石田, 2020; 加藤, 2018）。

ところで、「読み書き」と言われるように、文字は読めるだけでなく、正しく再生できること、つまり書字できることが求められる。日本人の多くは、漢字の形態などを想起するために空書（掌や机上などに人差し指等で字を書くような、書字類似行動）を用いるとされるが（佐々木・渡辺, 1984）、日本語学習者においても漢字の学習方略として、“繰り返し書く”方法が用いられていることが報告されている（たとえば、加藤, 2018）。漢字を含めて日本語の文字習得において、“書くこと”には重要な役割があることが示唆される（海保・Haththotuwa-Gamage, 2001）。

日本語学習者の書字に関連する研究としては、漢字の字形の複雑さと再生成績との関連を検証した研究（加納, 1988; 谷口, 2017; 豊田, 1996）、語彙知識と漢字の書き取り能力との関連を検証した研究（たとえば、大和・玉岡・熊・金, 2017）がみられる。また、非漢字圏日本語学習者の空書行動を扱った研究（大北, 2016）や、漢字やひらがなの書字指導に関わる研究（たとえば、林, 2018; 駒井, 1993）などがみられる。ただし、ベトナム人日本語学習者における書字動作や運筆に関連する研究は管見の限りみられない。

本研究ではベトナム人日本語学習者における図形の一筆描き動作を分析することで、その運筆の特徴について検討する。具体的には、ベトナム人学生の描線動作が他のローマ字圏の日本語学習者のそれと比較して、日本語を母語とする日本人学生の描線動作に類似した特徴をもっているのかを検証する。また、その結果をふまえて、ベトナム人学生の書字動作には、日本語の書字動作の習得にとって有利となるような特性があるのかどうかを考察していくこととした。

## 1.2 描線動作に関する先行研究

ところで、円や矢印といった図形や記号などの描き方には、文化間で違いがみられるという。たとえば、ヒンディー語は左から右へと書字されるが、このヒンディー語の使用者は矢印を左から右へと描いていく。これに対し、ウルドゥー語は右から左へ書字されるが、ウルドゥー語の使用者は矢印を右から左へと描いていく傾向がある（Vaid, Singh, Sakhuja & Gupta, 2002）。また、Fagard & Dahmen（2003）はフランス語を母語とするフランスの児童と、アラビア語を母語とするチュニジアの児童に円描画課題を実施し、その描き方を比較検討した。その結果、フランスの子どもは反時計回りで円を描いていたが、チュニジアの子どもにはそのような偏った描画傾向はみられなかったという。

これらの先行研究の結果からもわかるように、図形などの描き方にみられる文化差には、各文化で使用されている書字様式が強く影響しているとされる (Vaid, 2011)。実際、表記文字としてローマ字を使用しているドイツ語圏の大学生や、アメリカの児童は、フランスの児童と同じく、円を反時計回りで描く傾向がみられるという (Amenomori, Kono, Fournier & Winer, 1997; Taguchi, 2010)。“c”や“e”などの文字は反時計回りに書字されることが多い。こうした書字動作が西欧のローマ字圏にみられる円の描線動作の特徴に関連していると考えられる。

いっぽう、日本や中国、台湾などの漢字圏の学生を対象とした研究では、円を時計回りに描く反応が比較的多く、さらに三角形などの図形では、上の頂点から左下方向へと反時計回りに描く傾向が共通にみられるという (田口, 2017a; 田口, 2017b)。漢字を書くとき、垂直方向に延びる筆画 (点画) は、上から下方向へ書き進むのが原則であろう。漢字圏の学生はそうした書字動作を三角形などの描線動作にも適用していると考えられる。

このように、西欧のローマ字圏あるいはアジアの漢字圏では、それぞれの文化圏で描線動作に共通の特徴がみられることが示されている。ただし、ローマ字圏にあるベトナム語使用者に関して、どのような描線動作の特徴がみられるのかは、これまで検証されてきていない。

### 1.3. 本研究の目的

以上のような背景から、本研究ではローマ字圏にあるベトナム人日本語学習者を対象として円や三角形などの図形の一筆描き課題をおこない、描画開始位置および描画方向などの描線動作について分析をおこなうこととした。また、同じくローマ字圏にあるドイツ人日本語学習者、さらに日本人学生に同一の課題を実施して描線動作を分析する。そして、それぞれの描線動作を比較することで、ベトナム人日本語学習者にみられる描線動作の特徴を明らかにし、さらにそうした描線動作の特徴から、ベトナム人日本語学習者が日本語の書字動作に有利な特性を有しているのかを検討していくこととした。

## 2. 方法

### 2.1 実験参加者

本研究に参加してくれたのは、日本に留学中で日本語を学習しているベトナム人学生 5 名 (男性 1 名、女性 4 名、平均年齢 23.8 歳) と、同じく日本に留学中で日本語を学習しているドイツ人学生 6 名 (男性 5 名、女性 1 名、平均年齢 24.0 歳)、また日本人の大学生 5 名 (男性 2 名、女性 3 名、平均年齢 20.7 歳) の合計 16 名であった。いずれの参加者についても、書字する際に用いる手は右手であることが確認された。また、ベトナム人学生の日本語学習歴は 8 か月から 2 年の範囲にあり、ドイツ人学生のうち 2 名の日本語学習歴は不明で、残り 4 名の日本語学習歴は 2 年から 5 年の範囲にあった。

## 2.2 実験手続き

実験は実験者と参加者の対面による個別法で実施された。実験者は参加者の右横 90 度もしくは正面の位置に座っていた。円、三角形、菱形、五角形などの図形が事前に点線で記された実験用紙 (Figure1) および筆記具 (鉛筆) を配布し、これらの図形をそれぞれ鉛筆で一筆描きするように教示した。実験者は図形ごとに各参加者の描線動作を記録用紙に記入していった。記録した具体的内容は描画開始位置と描画方向であった。円の描画課題における描画開始位置については、反応をそれぞれ時計の文字盤 (1~12) のいずれかに分類し、その位置を記録した。また、三角形の描画開始位置については上、左下、右下の各頂点のいずれかに反応を分類し、それを記録した。さらに、菱形の描画開始位置については上、左、下、右の各頂点のいずれかに分類し、五角形の描画開始位置については上、左上、左下、右下、右上の各頂点のいずれかに分類し、それぞれ記録していった。つぎに、描画方向については各図形とも時計回り、もしくは、反時計回りのいずれかに反応を分類して記録をおこなった。

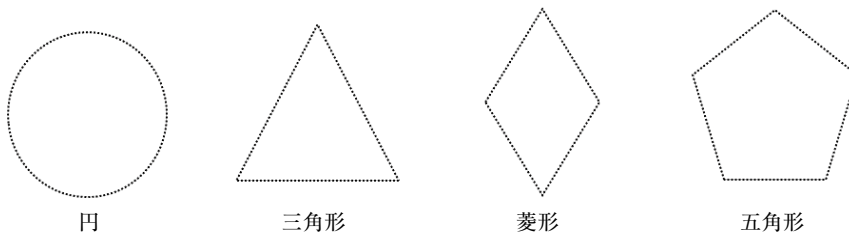


Figure 1 一筆描き課題の図形例

## 2.3 倫理的配慮

各実験参加者には事前に実験内容の概要を口頭および文書で説明した。また、実験参加については任意であり拒否できることや、実験に参加しても途中で参加を取りやめることができることなどを説明した。さらに、こうした実験への参加拒否や途中で取りやめによって当該参加者に何ら不利益が生じることはないことなども説明した。これらの説明のあと、実験参加に同意が得られた参加者に対してのみ実験を実施した。

## 3. 結果

本研究のデータ数は少ないため統計的検定はおこなわず、各参加者の反応結果を示すことでベトナム人学生、ドイツ人学生、日本人学生の反応傾向を比較することとした。各参加者の描画開始位置および描画方向の結果を図形別に Table 1 に示した。Table 1 に基づき、以下において

図形ごとに結果の比較をおこなった。

Table 1 各参加者の描画開始位置と描画方向 (cw: 時計回り、ccw: 反時計回り)

	円		三角形		菱形		五角形	
	位置	方向	位置	方向	位置	方向	位置	方向
ベトナム人留学生1	11	ccw	上	ccw	左	cw	上	ccw
ベトナム人留学生2	11	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
ベトナム人留学生3	12	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
ベトナム人留学生4	12	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
ベトナム人留学生5	12	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
ドイツ人留学生1	11	ccw	上	ccw	上	ccw	上	cw
ドイツ人留学生2	12	ccw	左下	cw	左	cw	左下	cw
ドイツ人留学生3	9	ccw	上	ccw	左	cw	左上	cw
ドイツ人留学生4	12	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
ドイツ人留学生5	12	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
ドイツ人留学生6	1	ccw	左下	cw	下	cw	左下	cw
日本人学生1	9	cw	上	ccw	上	ccw	左上	ccw
日本人学生2	7	cw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
日本人学生3	12	ccw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
日本人学生4	7	cw	上	ccw	上	ccw	上	ccw
日本人学生5	6	cw	上	ccw	左	cw	左上	cw

### 3.1 円描画課題

円の描画課題の結果をみると、ベトナム人学生では描画開始位置を円の左上にとる傾向がみられた。すなわち、ベトナム人学生5名のうちで時計の文字盤の11の位置に描画開始位置をとった学生は2名であり、残りの3名は時計の文字盤の12の位置に描画開始位置をとった。また、Table1の結果をみると、ベトナム人学生の円描画における描画方向はすべて反時計回りであることがわかる。したがって、ベトナム人学生では円描画においては円の左上あたりに描画開始位置をとり、反時計回りに描いていく傾向があることが示唆された。

ドイツ人学生の円描画課題の結果をみると、描画開始位置は時計の文字盤の9~1の位置まで広がっていた。ただし、6名のドイツ人学生のうち3名は、描画開始位置を時計の文字盤の12の位置にとっており、さらに時計の文字盤の11と1の位置に描画開始位置をとったものがそれぞれ1名であった。残りの1名は描画開始位置を時計の文字盤の9の位置にとっていた。描画方向の結果をみてみると、すべて反時計回りであった。したがって、ドイツ人学生の多くは円描画において、円の上側（時計の文字盤の11~1の位置）に描画開始位置をとり、そこから反時計回りに描いていくことが示唆された。

日本人学生の円描画課題の結果をみると、描画開始位置を時計の文字盤の12の位置にとっているものは5名のうち1名であった。また、時計の文字盤の7の位置に描画開始位置をとったものが2名で、時計の文字盤の9と6の位置に描画開始位置をとったものがそれぞれ1名であった。つぎに、描画方向の結果をみてみると、5名のうち4名が時計回りに描いた。反時計回りに

描いたのは、描画開始位置を時計の文字盤の12の位置にとったもののみであった。これらの結果から、日本人学生の多くは円の左下（時計の文字盤の9～6の位置）に描画開始位置をとり、時計回りに円を描いていくことが示唆された。

### 3.2 三角形描画課題

三角形の描画課題では、ベトナム人学生の全員が三角形の上の頂点に描画開始点をとっていた。また、描画方向の結果も、全員が反時計回りであった。したがって、ベトナム人学生は三角形の上の頂点から描き始め、反時計回りに描いていくことが示唆された。

つぎに、ドイツ人学生では6名のうちの4名が三角形の上の頂点に描画開始点をとっており、残りの2名は三角形の左下の頂点に描画開始位置をとっていた。また、描画方向の結果をみると、描画開始位置を三角形の上の頂点にとった4名の描画方向は全て反時計回りであった。いっぽう、三角形の左下の頂点に描画開始位置をとった2名の描画方向は全て時計回りであった。したがって、ドイツ人学生における三角形の描線動作は、三角形の上の頂点から反時計回りに描く反応と、三角形の左下の頂点から時計回りに描く反応に分かれることが示唆された。

日本人学生の三角形の描線動作をみると、全員が三角形の上の頂点に描画開始点をとっていた。また、描線方向の結果をみると、日本人学生では全員が反時計回りであった。したがって、日本人学生は三角形の上の頂点から描き始め、反時計回りに描いていくことが示唆された。

### 3.3 菱形描画課題

菱形の描画課題では、ベトナム人学生5名のうち4名が菱形の上の頂点に描画開始点をとっていた。また、1名は菱形の左の頂点に描画開始位置をとっていた。つぎに、描画方向をみると、菱形の上の頂点に描画開始位置をとった4名は全員が反時計回りに菱形を描いていた。菱形の左の頂点に描画開始位置をとった1名は、時計回りに菱形を描いていた。以上の結果から、菱形の描画では、ベトナム人学生の大半は菱形の上の頂点から描き始め、反時計回りに描いていくことが示唆された。

つぎに、ドイツ人学生では6名のうちの3名が菱形の上の頂点に描画開始点をとり、2名は菱形の左の頂点に描画開始位置をとっていた。残りの1名は菱形の下の頂点に描画開始位置をとっていた。また、描画方向の結果をみると、描画開始位置を菱形の上の頂点にとった3名の描画方向は全て反時計回りであった。いっぽう、菱形の左の頂点に描画開始位置をとった2名と下の頂点に描画開始位置をとった1名の描画方向は時計回りであった。ドイツ人学生における菱形の描線動作は、菱形の上の頂点から反時計回りに描く反応と、菱形の左の頂点から時計回りに描く反応の2つに大別されることが示唆された。

日本人学生の菱形の描線動作をみると、5名のうち4名が菱形の上の頂点に描画開始点をとっていた。残りの1名は、菱形の左の頂点に描画開始位置をとっていた。また、描画方向の結果をみると、菱形の上の頂点に描画開始位置をとった4名の描画方向はすべて反時計回りであり、菱

形の左の頂点に描画開始位置をとった1名の描画方向は時計回りであった。日本人学生の大半は菱形の上の頂点から描き始め、反時計回りに描いていく傾向にあることが示唆された。

### 3.4 五角形描画課題

五角形の描画課題では、ベトナム人学生の全員が五角形の上の頂点に描画開始点をとっていた。また、描画方向の結果をみても、全員が五角形を反時計回りに描いていた。したがって、ベトナム人学生は五角形の上の頂点から描き始め、反時計回りに描いていくことが示唆された。

ドイツ人学生では6名のうち3名が五角形の上の頂点に描画開始点を取り、2名が五角形の左下の頂点に描画開始位置をとっていた。残りの1名は五角形の左上の頂点に描画開始位置をとっていた。また、描画方向の結果をみると、描画開始位置を五角形の上の頂点にとった3名の描画方向は全て反時計回りであった。いっぽう、五角形の左下の頂点に描画開始位置をとった2名と左上の頂点に描画開始位置をとった1名の描画方向は時計回りであった。したがって、ドイツ人学生における五角形の描線動作は、五角形の上の頂点から反時計回りに描く反応と、五角形の左側の頂点（左上もしくは左下）から時計回りに描く反応に分かれることが示唆された。

日本人学生では5名のうち3名が五角形の上の頂点に描画開始点を取り、2名が五角形の左上の頂点に描画開始位置をとっていた。また、描画方向の結果をみると、描画開始位置を五角形の上の頂点にとった3名の描画方向は全て反時計回りであった。いっぽう、五角形の左上の頂点に描画開始位置をとった2名の描画方向は時計回りと反時計回りに分かれた。日本人学生の五角形の描線動作は、多くの場合、五角形の上の頂点から反時計回りに描く反応であることが示唆された。ただし、日本人学生では五角形の左上の頂点から描く反応も少数みられることも示唆された。

## 4. 考 察

本研究では、円や三角形などの図形の一筆描き課題をベトナム、ドイツ、日本の学生に実施し、それぞれの描画開始位置や描画方向を比較した。その結果、日本人学生では円描画においては円の左下に描画開始位置を取り時計回りに描き、三角形や菱形などの描画では上の頂点から反時計回りに描く傾向がみられた。いっぽう、ドイツ人学生では、円描画においては円の上側に描画開始位置を取り反時計回りに描く傾向があり、また三角形、菱形、五角形の描画においては上の頂点から反時計回りに描く反応と、左側の頂点から時計回りに描く反応がみられた。こうした日本人学生やドイツ人学生にみられる描線動作の特徴は Taguchi (2010) の先行研究の知見とも一致しており、本研究結果は先行研究によって支持されたといえる。

つぎに、ベトナム人学生の結果をみると、円描画においては、円のやや左上（時計の文字盤の11～12）に描画開始位置を取り、反時計回りに描く傾向がみられた。こうした描線動作は、本研究のドイツ人学生の描線動作に類似しているといえる。また、先にも述べたように、ローマ字圏

の被験者を対象とした研究においても、円描画において同様の描線動作がみられることが示されている（たとえば、Fagard & Dahmen, 2003）。円の描画においてベトナム人学生は、ローマ字圏に共通にみられる描線動作と同様の反応を示すことが本研究結果から示唆された。

三角形や菱形、五角形の描画課題におけるベトナム人学生の結果をみると、これら3種類の図形では上の頂点に描画開始点を取り、反時計回りに描く傾向がみられた。こうした描線動作は、本研究の日本人学生の描線動作に類似していたといえる。また、上述したように、中国や台湾など漢字圏の学生も、三角形などの図形を上から反時計回りに描く傾向があることが指摘されている（田口, 2017a; 田口, 2017b）。円描画の結果とは異なり、三角形や菱形、五角形の描画においてベトナム人学生は、漢字圏に共通にみられる描線動作と同様の反応を示すことが本研究結果から示唆された。

以上のように、本研究の結果から、ベトナム人学生の描線動作には、ローマ字圏に共通にみられる特徴と、漢字圏に共通にみられる特徴の双方が見出された。こうしたベトナム人学生の描線動作の特徴が、どのような要因から生じているのかについては、本研究結果だけでは判然としない。ただし、すでに述べたように、今日のベトナムにおいてはローマ字表記が用いられていること、それと同時に歴史的には漢字や漢字由来の文字がベトナムで使用されていたことが、ベトナム人学生の描線動作の特徴に関連していると推察される。この点に関しては、今後、さらなる検証をおこなっていく必要がある。

ところで、こうしたベトナム人学生の描線動作の特徴をふまえると、西欧ローマ字圏の日本語学習者に比べてベトナム人日本語学習者は、日本語の書字動作の習得に有利な特性をもっていることがうかがわれる。すでに述べたように、漢字の書字では、垂直の筆画については“上から下へと書き進む”という一定の原則がある。日本人学生は、こうした漢字に特有の書き方を三角形や菱形の図形を描くときにも適用し、上の頂点から左下方向へと書き進んでいったと考えられる。ベトナム人学生も“上から下へと図形を描く”傾向がみられたことから、漢字の書字にみられる運筆の一部に対しては“親和性”をもっていることが推察できる。

この点に関連して、日本語学習者の描線動作について検討した田口（2013）は、日本語の学習歴が長い学習者ほど、日本語母語の学生と同様の描線動作の特徴を示したと報告している。つまり、長期にわたって日本語を学習することで、日本語の書字動作が日本語学習者の描線動作にも影響を与え、その結果として日本人に類似した描線動作を示すようになったと考えられるという。

この研究結果は、第二言語としての日本語の学習が学習者のもともとの認知・行動特性に影響を与えたことを示す結果であるが、これとは逆方向の影響を想定することは、当然、可能であろうとおもわれる。すでに述べたように、ベトナム人日本語学習者では漢越語の知識によって漢字語彙の習得が促進されることが示されている（たとえば、松田ら, 2008 など）。このように、学習者が有している特性が、第二言語としての日本語の習得に有利に働くことは他の先行研究でも実証されている（たとえば、玉岡, 1997）。こうした先行研究の結果をふまえると、ベトナム人日



本語学習は日本や漢字圏にみられる描線動作と類似の描線動作の特性を有しているため、日本語を書字する動作への順応が早いことが期待できる。つまり、西欧のローマ字圏の日本語学習者に比べれば、ベトナム人日本語学習者は、ひらがなや漢字を含む日本語の書字動作の習得に有利な特性をもっていると考えられるだろう。

ただし、漢字の書字には、単に書字動作・運筆に関わる要因だけでなく、漢字の字形の識別など様々な要因が関与していることも指摘されている（たとえば、石田, 2017; 谷口, 2018）。こうした点も考慮しながら、ベトナム人日本語学習者の書字動作に関する特性をふまえた日本語の書字指導法を確立し、実際の指導効果を検証していくことが今後の課題だといえる。

#### 引用文献

- Amenomori, M., Kono, A., Fournier, J. S., & Winer, G. A. (1997) A cross-cultural developmental study of directional asymmetries in circle drawing. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 28(6), 730-742.
- Fagard, J., & Dahmen, R. (2003) The effect of reading- writing direction on the asymmetry of space perception and directional tendencies: a comparison of between French and Tunisian children. *Laterality*, 8(1), 39-52.
- 林朝子 (2018) 非漢字圏日本語学習者書字による平仮名の特徴：概形・筆脈を中心に 三重大学教育学部研究紀要, 69, 91-96.
- 石田ゆり子 (2017) 漢字字形パターン認識を取り入れた指導法の学習態度に及ぼす影響：ベトナム人留学生を対象に 獨協大学日本語教育紀要, 12, 1-20.
- 石田ゆり子 (2020) ベトナム人日本語学習者の漢字学習に関する意識と方法：都内日本語学校に通う留学生への質問紙調査より JSL 漢字学習研究会誌, 12, 33-42.
- 岩月純一 (2005) 近代ベトナムにおける「漢字」の問題 村田雄二郎・C. ラマルル (編) 漢字圏の近代：ことばと国家 (pp. 131-147) 東京：東京大学出版会
- 海保博之・Haththotuwa Gamage Gayathri Geethanjali (2001) 非漢字圏日本語学習者に対する効果的な漢字学習についての認知心理学からの提言 筑波大学心理学研究, 23, 53-57.
- 加納千恵子 (1988) 外国人学習者にとっての漢字の字形の複雑性 筑波大学留学生教育センター日本語教育論集, 3, 95-121.
- 加藤豊二 (2018) 日本語学校でのベトナム人学習者への漢字教育：アンケートの結果をもとに 日本語教育論集, 27, 1-8.
- 駒井利江 (1993) 知覚運動過程を重視した漢字書字指導方略のための調査研究. 早稲田大学日本語研究教育センター紀要, 5, 1-26.
- 桑原陽子 (2000) 非漢字圏日本語学習者の漢字学習におけるイメージ媒介方略の有効性：漢字と英語単語の対連合学習課題による検討 教育心理学研究, 48(4), 389-399.
- 長野真澄 (2017) 日本語漢字単語とベトナム語漢越音における音韻類似性調査 広島大学日本語教育研究, 27, 35-41.
- 中川康弘・小林学 (2008) ベトナム人日本語学習者の漢越語知識と漢字語彙習得についての一考察：現地における正誤判断テストとインタビュー調査から 桜美林言語教育論叢, 4, 75-91.
- 中村かおり (2019) 非漢字圏学習者の負担を軽減する漢字指導の試み 拓殖大学日本語教育研究, 4, 31-54.
- 松田真希子・タンティ キム テュエン・ゴ ミン トゥイ・金村久美・中平勝子・三上喜貴 (2008) ベトナム語母語話者にとって漢越語知識は日本語学習にどの程度有利に働くか：日越漢字語の一致度に基づく分析 世界の日本語教育, 18, 21-33.
- 大北葉子 (2016) 非漢字圏日本語学習者の漢字正誤判断時の眼球運動と空書行動 日本認知心理学会第 14

回大会発表論文集 p.13

- 佐々木正人・渡辺 章 (1984) 「空書」行動の文化的起源：漢字圏・非漢字圏との比較 *教育心理学研究*, 32 (3), 182-190.
- 佐藤由利子・堀江学 (2015) 日本の留学生教育の質保証とシステムの課題：ベトナム人留学生の特徴と送り出し・受け入れ要因の分析から *留学生教育*, 20, 93-104.
- Taguchi, M. (2010) Cultural differences in drawing movements between right-handed Japanese and German participants. *Psychological Reports*, 107(1), 329-335.
- 田口雅徳 (2013) 第二言語としての日本語の学習が学習者の描線動作に与える影響：日本人大学生と交換留学生を対象とした予備研究 *獨協大学日本語教育紀要*, 9, 32-40.
- 田口雅徳 (2017a) 円・三角形の一筆描きにみられる描線動作の文化的特徴 (2)：日・中大学生を対象とした比較文化的研究 *日本発達心理学会第28回大会発表論文集* P3-53.
- 田口雅徳 (2017b) 円・三角形の一筆描きにみられる描線動作の文化的特徴 (3)：日・台大学生を対象とした比較文化的研究 *日本心理学会第81回大会発表論文集*, 3B-73.
- 玉岡賀津雄 (1997) 中国語と英語を母語とする日本語学習者の漢字および仮名表記語彙の処理方略 *言語文化研究*, 17(1), 65-77.
- 谷口美穂 (2017) 非漢字系日本語学習者の漢字再生を困難にする諸要因 *日本語教育*, 167, 1-14.
- 豊田悦子 (1996) 個別漢字の形特性と出力との関係 *ICU日本語語教育研究センター紀要*, 5, 25-43.
- Vaid, J. (2011) Asymmetries in representational drawing: Alternatives to a laterality account. In Schubert, T., & Maass, A. (Eds.) *Spatial Dimensions of Social Thought* (pp. 233-256) Berlin: Mouton de Gruyter.
- Vaid, J., Singh, M., Sakhuja, T., & Gupta, G.C. (2002) Stroke direction asymmetry in figure drawing: Influence of handedness and reading/writing habits. *Brain and Cognition*, 48(2-3), 597-602.
- 大和祐子・玉岡賀津雄・熊可欣・金志宣 (2017) 韓国人日本語学習者の語彙知識と漢字の読み書き能力との因果関係の検討 *ことばの科学*, 31, 39-58.